

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成27年10月31日現在

今月の重点活動

■祝だいこん 栽培研修会を開催

管内の園芸品目の多くが、生産者数や栽培面積が減少する中、祝だいこんは、年々生産者数、栽培面積とも増加傾向にあり、今年には生産者44名が、約5.3haの栽培を計画している。また、市場からの要望量も、前年の出荷実績対比で約110%と増加しており、岐阜の産地に対する期待も高まっている。

10月8日に、栽培研修会が開催され、農業普及課から、最も条件の良いほ場の選定、ほ場準備、適期は種の励行、病虫害防除、鳥獣害対策、トンネル被覆など、栽培管理のポイントについて説明し、市場ニーズである「太くて、ボリュームのある祝だいこん」が出荷できるよう指導した。

今年のは種期間は、10月10日～13日までと、例年より2日早くなっており、今後、農業普及課では、発芽や生育状況などを確認するとともに、は種後1ヵ月、2ヵ月に生育調査を実施し、調査結果に基づく技術情報を提供する予定である。（園芸産地支援第一係・近藤 勝）



【栽培研修会の様子】

売れる農畜産物づくり

■小麦 タマイズミの高タンパク化と難防除雑草対策

10月15日に、平成28年産の良質小麦生産に向け、高タンパク化のための肥料試験と難防除雑草対策の除草体系試験について、JA全農岐阜関係者と打合せを行った。室内検討後、本巣市で実施予定の難防除雑草対策試験ほ場において、秋耕起後に発生するイタリアンライグラスやカラスムギの状況を確認した。

今後、農業普及課では、岐阜市、羽島市、本巣市で設置する各実証ほ場の調査、成績取りまとめをJAぎふと進め、栽培暦や技術指導資料への反映を行っていく予定である。（地域支援第三係・岡田隆史）



【防除対策実証の確認】

■いちご 岐阜地域いちご全体研修会を開催

10月27日、岐阜地域いちご全体研修会が開催され、農業普及課から、厳寒期に収量を上げている生産者のハウス内環境制御技術を紹介し、温度や炭酸ガス濃度の制御ポイントなどについて提案した。

また、美濃市観光協会の池村周二事務局長から、「初めての方でも手軽にできるSNS（Facebook）活用方法、利用上の注意点」と題する講演が行われ、「SNSを活用し、いちごのファンを多く作ることが重要であり、いちごへの興味・関心を持ってもらうため、いちごができるまでの流れを公開するなど、岐阜いちごの知名度アップに繋げて欲しい。」との説明があった。出席した生産者からは、「日本一のいちご産地を作るための方策について考える良い機会となった。」などの意見があった。

今後、農業普及課では、研修会などを通じて、ハウス内環境制御技術の普及やSNSを活用した若手生産者のネットワークづくりなどを支援していく予定である。

（園芸産地支援第一係・渡辺新一、藤田文彦、遠藤るみ子）



【全体研修会の様子】

戦略的な流通・販売

■アスパラガス 第4回産地戦略会議を開催

10月7日、第4回アスパラガス産地戦略会議を開催し、農業普及課から、前回の会議結果を踏まえ、アスパラガス産地振興プロジェクト案の対応策と実施時期の修正点について説明し、合意形成を図った。

また、産地戦略会議の最終成果として、「羽島市アスパラガス産地拡大ビジョン」を作成することを提案し、項目の柱立てと構成や内容などについての検討を行った後、選果場の整備や営農組合への導入説明会など具体的な活動方法について検討を行った。今回の産地戦略会議では、具体的

な産地拡大の方向性と今後の活動内容が明確になり、産地拡大戦略が概ねまとまった。

また、産地振興プロジェクトの対応策の中には、既に活動が始まっている項目もあることから、今後、円滑な活動を進めるため、「産地拡大プロジェクトチーム（仮称）」の立ち上げを提案した。

今後、農業普及課では、プロジェクトチームによる活動を進めるとともに、各対応策の進捗状況の確認と目標達成に向けた進行管理などの支援を行う予定である。（園芸産地支援第一係・藤田文彦）

■薬用作物 **ハトムギ収穫**

10月21日、岐阜市における薬用作物の産地化に向け、5月に設置した栽培ほ場で、農業機械メーカーの協力のもと、汎用型コンバインによるハトムギ収穫が行われた。乾燥後の脱ぶは愛知県大治町のメーカーに依頼し、生薬「ヨクイニン」となる。

今後は、安定的な販路を確保するため、漢方薬品メーカーとのマッチングにも参加する予定がある。今年度の栽培品種は、草丈が長くて収穫の作業性が悪く、熟期のバラつきなどの問題があるため、農業普及課では、品種選定や栽培マニュアルの作成への助言を行っていく予定である。（地域支援第一係・稲葉千佳）



【産地戦略会議の様子】



【収穫の様子】

多様な担い手の育成・確保

■えだまめ **若手生産者と役員との意見交換会を開催**

10月19日、JAぎふえだまめ部会の若手生産者と役員との意見交換会が開催され、えだまめ生産拡大に向けた方策などについて意見交換を行った。主に、選別作業受委託体制の整備や農地集積について活発な意見が交わされ、今後、若手生産者が中心となり、生産拡大に向け取り組むことを確認した。

また、役員からは、「高品質なえだまめを安定出荷することが産地の責任であることを忘れず、しっかり取り組んで欲しい。」との話があった。

今後、農業普及課では、関係機関と連携し、生産拡大に向けた取り組みの支援や提案を行う予定である。（園芸産地支援第一係・川部 知）



【意見交換会の様子】

■市之枝営農組合 **アスパラガスの導入指導**

羽島市の(有)市之枝営農組合は、野菜栽培に取り組む中で、アスパラガスのハウス栽培を考えており、10月19日に、市、農林事務所、組合による意見交換を行った。

組合の導入方針に沿って、他の作物との労働時間の調整やアスパラガスの収支を確認しながら、最短で平成29年から栽培を開始することとなった。農業普及課では、市内で複合経営に取り組む営農組合のモデルとなるよう、重点支援を行う予定である。（地域支援第二係・魚住雅信）



【組合事務所での会議】

魅力ある農村づくり

■かき **かき農家に対する獣害対策の支援**

10月24日、円蔵洞のかき生産者に対し、平成28年度の獣害対策に係る補助事業要望について、再度合意形成を図った。鳥獣被害調査票、被害状況写真、被害防止対策の見積書など多くの資料を必要とするため、期限までに提出できるよう、一つ一つ確認作業を行った。

また、西秋沢地区のかき生産者3名が、今年わな猟免許を取得したことから、侵入防止柵とともに、捕獲に係る箱罠、くくり罠も要望することとした。今後、農業普及課では、今回出された要望について、地区の農政推進委員を通じて、岐阜市鳥獣被害対策協議会において図られるよう、引き続き支援していく。（園芸産地支援第二係・青山 哲）



【座談会の様子】